



中国のウイグル人への弾圧 状況についてレポート

在日ウイグル人有識者会議

2018年 9月 8日

目次

第一章 概要	1
第二章 「強制収容所（再教育センター）」の現実	2
1. 【ウイグル人 100 万人以上が強制収容所に】	2
2. 【強制収容所の位置・規模が明らかに】	2
3. 【収監者及び関係者の証言】	2
4. 【収容所で不明の病気が蔓延】	3
5. 【収容所から死者が続出】	3
6. 【ウイグル人口密集地に火葬場】	3
7. 【家に残された子供は孤児園に】	4
8. 【アメリカ政府の見解】	4
第三章 ウイグル人社会各界のエリートも収容所に	7
1. 【教育界】	7
2. 【宗教界】	9
3. 【スポーツ界】	11
4. 【芸能界】	11
5. 【メディア関連】	12
6. 【経済界】	13
7. 【官僚・公安関係者】	14
8. 【地方の党・政府責任者】	14
9. 【収容所内死亡者リスト】	15
第四章 “新疆のウイグル自治区”：中国高度な監視下の野外刑務所	16
1. 中国当局はウイグル地域を「野外刑務所」化	16
1.1 【漢民族の大量移住】	16
1.2 【7・5 ウルムチ虐殺】	16
1.3 【悪漢・陳全国】	17
1.4 【最先端の監視技術の実験場】	17
1.5 【政治的信頼度点数表】	17
1.6 【一般家庭に政府幹部が宿泊】	19
1.7 【スマートフォンにスパイウェアを強制装着】	19
1.8 【全車両に GPS を強制装着】	19
1.9 【ウイグル人のパスポートを没収】	19
1.10 【ウイグル人逮捕者数が全国の 21%】	19
2. 中国当局はウイグル住民から DNA など生体データを採集	20
2.1 【検診名目で DNA 採集】	20
2.2 【臓器狩り】	20
3. 海外在住のウイグル人（留学生、永住者、帰化者）も監視対象に	21
3.1 【在日ウイグル人の被害】	21

3.2 【海外にいるウイグル人の被害】	23
第五章 中国のウイグル言語への侵害状況.....	26
第六章 中国のウイグル文化・宗教への侵害状況.....	29
1. 【ウイグル文化への侵害】	29
2. 【宗教への侵害】	32

第一章 概要

古代より東トルキスタン（“現新疆ウイグル自治区”）は、ヨーロッパと東アジアをつなぐ要衝であるだけでなく、石炭、石油、天然ガス等地下資源の豊富な地域だ。1949年に中国人民解放軍が東トルキスタンに侵攻し、「新疆ウイグル自治区」として共産党の支配下に組み込んだ。それ以来、中国当局によるウイグル人への差別的、抑圧的政策がずっと続いてきた。

だが、2年前から事態が急変し、ウイグル情勢は著しく悪化した。2016年に元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を発揮した陳全国が“新疆ウイグル自治区”の書記に就任してから、独裁的な長期政権を築いた習近平中国共産党総書記をバックにし、東トルキスタン歴史の中で最も酷く露骨な人権弾圧、同化・民族浄化政策を展開し始めた。習近平政権が推進する現代版シルクロード経済圏構想「一帯一路」の戦略的要衝とみられる東トルキスタンに、完全な監視・封じ込めた社会を作り上げ、ウイグル人の言語、文化、宗教を完全に絶滅させるような民族浄化政策を実施している。

陳全国が就任して以来、前任の張春賢が推進した「双語教育」（事実上の漢語教育）をさらに露骨化し、小学校から大学まで全ての教育機関でウイグル語の使用を禁止した。ウイグル語で出版された教科書、小説、歴史を反映する本、イスラム教に関連する書籍を焼却した。

陳は、1年も経たない間に、9万人を越す治安関係ポストを募集し、ウイグル自治区の警察の人員を2015年の6倍に増員し、ウイグル地域において「監視社会」の完成を手掛けた。2017年第1四半期（1～3月）のみで、ウイグル自治区で10億ドル（約1130億円）以上に相当するセキュリティ関連の投資をし（カシュガル市だけで今年3月、5100万ドル（約55億円）以上を投じた）、ウイグル全地域に人工知能（AI）の顔認証技術が搭載された監視カメラを設置した。中国政府はウイグル自治区を最先端の監視技術を試行する実験場にした。

至る所に500m間隔で監視塔付きの交番（検問所）を設け、24時間体制で検問・監視を始めた。全てのウイグル人から旅券が没収された。スマートフォンにスパイウェア・アプリのインストールを強要した。GPSの車両搭載が義務付けられた。ウイグル、カザフなど現地住民の政治信頼度を評価するため、「個人情報採集表、点数表」を配布し、全住民に点数をつけ、身分証明書IDと連結させた。この点数で拘束対象者を決め、「再教育センター」に収監した。12歳から65歳までの住民を対象にDNAや血液のサンプル、指紋、虹彩、血液型などの生体データを集めた。

最も酷いのは、2017年初頭から、「再教育センター」、「教育転化学校」、「技能研修センター」という名前の「強制収容所」の建設を急ピッチで進め、何も罪のない100万人以上のウイグル人（ウイグル人口の約10%）をこれらの収容所に監禁し、共産党の政治思想、宗教転化（非イスラム化）、民族アイデンティティを破壊するための「洗脳教育」を行っている。ウイグル人社会に何らかの影響を持つ著名人、教育界のエリートたち、著名なイスラム学者、人気のスポーツ選手、音楽家、経済界で成功した経営者（銀行に100万円以上貯金のある人）らも続々と強制収容所に入れられた。両親が拘束され家に残された子供たちが孤児園に送られた。

そして、各収容所から続々死者が出始めた。遺体は家族に返さずに内密に「処分」された。カシュガル空港では「人体器官運送通路」、「移植器官航空運送保障プロセス」標識の専用通路やスペースが用意され、臓器売買のため国家ぐるみで「臓器狩り」していることが明らかになった。

21世紀の今この瞬間も、中国政府が行っている「ナチス強制収容所の再現」（ジェノサイド）とも言える人権弾圧、民族浄化に対し、日本を含む多くの国・政府の沈黙が続いている。納税者である我々在日本のウイグル人は、良心を持つ、正義を求める日本国民・政府に対し以下を呼びかけたい。沈黙しないでほしい。中国政府を非難し、収容所の閉鎖、全収監者の即時釈放に働きかけてほしい。これは単に人権弾圧の問題ではなく、「人道に対する罪」、世界平和への挑発であり、ウイグル民族存亡の危機とみてほしい。

第二章 「強制収容所（再教育センター）」の現実

2016年に元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を發揮した陳全国が新疆ウイグル自治区の書記に就任してから、独裁的な長期政権を築いた習近平中国共産党総書記をバックにし、露骨な人権弾圧・民族浄化政策を展開し始めた。

1. 【ウイグル人 100 万人以上が強制収容所に】

東トルキスタン（“新疆ウイグル自治区”）において、2017年初頭以来、「再教育センター」、「教育転化学校」、「技能研修センター」という名前の「強制収容所」の建設が急ピッチで進められると同時に、100万人以上のウイグル人（ウイグル人口の約10%）がこの収容所に収監されていることが最近続々と明らかになった。中国の人権を監視する国際NGO組織・中国人権擁護(Chinese Human Rights Defenders)が今年8月3日発表した最新の調査報告によると、上記の「再教育センター」と呼ばれる閉鎖式キャンプ(強制収容所)に110万人が収監されているほか、開放式キャンプ(食事や寝泊まりに自宅に帰れる)で約220万人が再教育(洗脳教育)されているという。合わせると330万人が「再教育」の対象となっている。東トルキスタンの人口は2300万人(2014年統計)で、ウイグル人口は48.5%、約1130万人だとすると、ウイグル人口の約30%の人が「再教育」されているのだ『参考資料1-2』。報道によると、2017年春以来強制収容所に収監された人で釈放された人がいないという『参考資料3』。

何も罪がなく、「要注意人物点数表(第四章を参照)」でマイナス点数が高い人が収容所送りの対象者となっている。例えば、(1)ウイグル人である(2)イスラムの礼拝をしている(3)宗教知識がある(4)(当局が要注意とする中東など)26カ国に行ったことがある(5)外国に留学した子供がいる……といった項目に該当すれば要注意人物として対象者となる『参考資料4』。また、ウイグル人社会に何らかの影響を持つ著名人、教育界のエリートたち、イスラム学者、人気スポーツ選手、音楽家、経済界で成功した裕福な経営者らも「民族情緒(民族的気持ち)がある」、「両面人(裏表がある人物)」として収監対象者となっているのである(第三章を参照)。収容所の状況は海外メディア、研究者らによって次々と報道されるようになった『参考資料5-10』。

2. 【強制収容所の位置・規模が明らかに】



写真1. カシュガル疏勒县(イエニシヘル)強制収容所上空写真
(《疏勒县法制教育转化学校》)

東トルキスタン（89県あり）の各県に少なくとも5つの再教育センターがあるとされ、科学者の衛星写真やグーグルマップからの調査で既に29件の収容所位置、その規模が明らかになった『参考資料11-13』。それぞれ一か所に1000人から1万人が収監されている。例えば、2017年4月にカシュガル疏附県（コナ・シェヘル）で当時建設予定の収容所（新疆疏附县法制教育转化学校、位置座標39° 21'33.1"N 75° 51'50.0"E）の入札募集によると、収容所は3.5万平方メートル広さで、政府出資1.4億元（約29億円）であった『参考資料14』。同様にカシュガル・疏勒県巴仁郷（イエニシェヘル・バリン郷、1990年に有名な「バリン郷事件」発生した場所）座標39° 21'29.2"N 76° 03'04.1"Eに位置する収容所《疏勒县法制教育转化学校》（上・写真1）は一年前に何もなかった畑に新しく建てられた収容所で、1号館～5号館の4階建「教学棟」（70.5m×17.5m）と管理棟があり、それぞれ面積4943.11㎡である『参考資料15』。グーグルマップからも上記座標コードから確認できる。

また、アルトゥシュ（クズルス・キルギス自治州）政府ホームページで、2018年3月21日掲示された、「アルトゥシュ市職業技能教育研修サービスセンター建設項目の環境への影響報告表に対する審査意見」（关于《阿图什市职业技能教育培训服务中心建设项目环境影响报告表》的审批意见）『参考資料16』によると、39° 38'28.0"N 75° 59'46.0"Eに位置する該当教育センターは、9.6万㎡規模（東京ドーム2個分の広さ）、政府投資3億5000万元（約60億円）で、収監者部屋（7.6万㎡）、管理用部屋（1.1万㎡）、武装警察用部屋（8.5千㎡）、有刺鉄線のフェンス付き障壁1292m、医療室1200㎡、8460人分の食事を作る厨房などから構成されている。名前は技能教育研修センターだが、武装警察、監視塔完備した、**8000人が収容できる強制収容所**である『参考資料17』（写真2）。



写真2. アルトゥシュ市強制収容所上空写真
（《阿图什市职业技能教育培训服务中心》）

最近、さらに規模が大きい収容施設の実態が明らかになった。ウルムチ市達坂城区に位置する「ウルムチ職業技能教育研修センター」（座標：43° 23'01.8"N 88° 17'18.2"E）は占有面積52万㎡、建築面積13万㎡（東京ドームの約3倍）であった。この収容施設には収容ビル（監獄）が8棟あるほか、居留センタービル1棟、警察備勤ビルが8棟、警察総合ビル1棟、病院棟、レストラン棟、物資倉庫棟、武装警察宿舍2棟、監視塔などがある。推測では約1万人の収監者を収容できるという『参考資料18』（写真3）。そのほか、カラマイ市に地上5メートル、地下40メートルの地下収容所が建設されたことが明らかになった。この秘密の地下収容所には少なくとも1万人を収容する予定だという『参考資料19』。

これらの収容施設は、新たな政府投資で建設され、調査で分かったものだが、収監者数があまりにも多いため、入りきれない人たちは、臨時収容所として使っている学校（廃止されたウイグル

小中学校)、党校(共産党学校)、専門学校、病院、体育館、倉庫、まだ特定できていない様々な施設に収監され、すし詰め状態にあるという。また、ベッドが足りないため、昼班/夜班交代制で、



写真3. 「ウルムチ職業技能教育訓練センター」の上空写真
(《乌鲁木齐职业技能教育培训中心》)

教育される人と寝る人を入れ替えているという。

3. 【収監者及び関係者の証言】

収容所で8か月収監された経験があり、カザフスタン政府の働きかけで釈放されたカザフスタン国籍のウメル氏の証言『参考資料20-22』によれば、彼はピチャンにある両親を訪ねて行ったとき、身柄を拘束され、危険分子として「カラマイ市技術研修センター」という収容所に送られた。この収容所には当時約1000人が収容され、8割がウイグル人、2割がカザフ人だった。環境条件が大変悪く、狭い一室に20人以上がすし詰め状態で寝泊まりしていた。食事も、トイレも同室で済ませたという。毎日早朝から夜遅くまで中国語でプロパガンダ歌謡を歌わせ、共産党の政治思想、宗教転化(非イスラム化)、民族としてのアイデンティティを破壊するための「洗脳教育」が行われ、その日のテストで不合格なった者や少しでも不満を表した人は厳しく罰せられる(食事与えず、手足が絞られた状態でヘッドホンより大音量を流し睡眠できないようにする)という。イスラム教徒の禁物である酒や豚肉を強要されているとの証言もある『参考資料23』。

また、中国の強制収容所で働いていて、カザフスタンへ不法入国した罪で逮捕されたサイラグル・サウトバイ(Sayragul Saulytbay, 41歳)が法廷で、中国が存在を否定してきた「再教育キャンプ」について証言した『参考資料24』。証言によると、彼女が働いた「キャンプには2500人ほどの収監者がいて、そこは一般に政治キャンプと呼ばれるが、実際は山区の刑務所だった」という。カザフスタン政府は中国からの送還要求を押し切って、サイラグルを無罪釈放し、カザフスタンにいる家族の元に戻した『参考資料25』。

2018年7月19日NHK-BS1テレビチャンネルで放送した国際報道番組「中国でウイグル族大量拘束 今何が?」でも、在日留学生4名が「家族が収容所に送られ、全く連絡がつかず、安否状況がわからない」と証言した『参考資料26』(在日ウイグル人の被害状況の詳細は第四章を参照)。

4. 【収容所で不明の病気が蔓延】

ウイグル自治区政府衛生局の業績とした記事（ホームページで発表されその後削除された）によると、ホータン地区1市、7県の収容所で不明の「伝染病が蔓延」したため、2017年7月9日から8月3日の間に自治区の調査チームを派遣し調査に行った結果、「肺結核」だったということで、558人を病院に搬送・隔離したという。しかし、これらの患者が本当に肺結核なのか、その後どうなったのかは一切明らかにされておらず、政府による隠ぺい・情報封鎖が行われたことが明らかである『参考資料27』。

5. 【収容所から死者が続出】

これまでの報道で各収容所から続々死者が出ていて『参考資料28-29、第三章死者リスト参照』、一部の老人遺体以外は家族に返されず、家族に合わせることもなく、新しく設けられた一般人が入ることのできない遺体処理・安置所『参考資料30』で焼却処分されていると思われる（ウイグル人の民族習慣では亡くなった人に葬儀を行い、故人を専用墓地に埋葬する）。

臓器売買のため、臓器が抜き取られた痕跡のある遺体もあったという噂がある。そして、それを裏付ける写真もあった。



写真4. カシュガル空港で臓器運送を示す

上の写真3は、観光でウイグルに行った日本人により今年1月にカシュガル空港で撮られた写真であり、空港では「人体器官運送通路」、「人体寄付、移植器官航空運送保障プロセス」標識の専用通路やスペースが用意され、国家ぐるみで人の臓器を強盗していることを示す徹底的証拠である。この内容は The Epoch Times でも報じられた『参考資料31』。

在日ウイグル人一人の証言によると、彼女の弟（24歳）が今年5月に収容所で亡くなり、遺体を家族に返さずに当局の監視下で直接処理されたそうだ。死因は何なのか、遺体はどこに、どういう方法で処理されたかなどの情報は一切聞かされていない。電話に答えた親族は「党のケアの元で葬送した、さようなら」と言い他に何も言えなかったという。

6. 【ウイグル人口密集地に火葬場】

そして、もっとも不思議なことは、中国当局はイスラム教を信仰するウイグル人が95%以上を占める県、町、村に急ピッチで数多くの火葬場建設を進めている『参考資料32』。そして、一般人月給の数倍の賃金で人員（もちろん漢民族）を募集している『参考資料33』。

今後ウイグル人の死体を火葬するつもりなのかと 思うだけでも鳥肌が立つほど恐ろしい！ 中国政府は一体何をしようとしているのか！ これらの事象は「ナチス強制収容所の再現」(ジェノサイド)の予兆とも言えるだろう。

7. 【家に残された子供は孤児園に】

また、深刻な問題になっているのは、両親が拘束され、家に残された大勢の幼い子供たちが孤児園に入れられ、ウイグルアイデンティティーを無くす漢化教育が行われている。「両親は政治的な問題を抱えているため、子供は通常の子供と一緒に学校に通うことが禁じられている」という『参考資料34』。若い妻のみ残された家には、漢民族の男性が世話役で寝泊まりするケースもある。

8. 【アメリカ政府の見解】

アメリカのペンス副大統領は7月26日、首都ワシントンで講演し「中国政府は、数十万人、もしくは数百万人の規模でイスラム教徒のウイグル族を再教育施設という場所に収容している。宗教の信仰と文化的な帰属意識を失わせようとしている」と述べて非難したことを、NHKが7月27日朝のTV番組で伝えた『参考資料35』。

さらに、7月26日ウイグルにおける収容所問題に関して、アメリカ議会で初めてとなる公聴会が開かれた。昨年に大統領選に候補者となった上院議員・議長のルビオ (Marco Rubio) 氏がこの公聴会を招集した。家族20人以上が拘束され、行方不明となったことをアメリカ ラジオ・フリー・アジアのアナウンサー・記者であるグリチェヒラ・ホジャ (Gulchehre Hoja, アメリカ国籍のウイグル人) が証言した。また、アメリカ駐国連経済社会理事会大使のケリー・カリー (Kelley Currie) 氏が、「2017年4月から、習近平指導下の中国当局がウイグル人に対する弾圧程度は「人を驚かす、ショッキングなものだ」、文化大革命がエスカレートした時期とも比べることができないほど酷いのだ。男子髭の禁止、女性の公衆場でのベール着用禁止、そして短いズボンを着ること、喫煙、お酒を飲むこと、豚肉を食べることを拒むことを犯罪と見なし、政府系公式テレビを見ることを拒むことさえ罪に問われている」と述べた『参考資料36』。

ナチス式経験しているとも言える「強制収容所」は、ウイグル民族数千年の歴史の中で経験している最も酷く、ウイグル人の言語、文化のみならず、民族が絶滅する危機に直面している重大な事件である。

『参考資料』

1. China: Massive Numbers of Uyghurs & Other Ethnic Minorities Forced into Re-education Programs, Chinese Human Rights Defenders, August 3, 2018
<https://www.nchrd.org/2018/08/china-massive-numbers-of-uyghurs-other-ethnic-minorities-forced-into-re-education-programs/>
2. Survey: Three Million, Mostly Uyghurs, in Some Form of Political 'Re-Education' in Xinjiang
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/millions-08032018142025.html>
3. 'No Releases' of Thousands Held For Years in Xinjiang Township Political 'Re-education Camps'
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/township-08062018145657.html>
4. 水谷尚子, 「ウイグル絶望収容所の収監者数は 89 万人以上」, Newsweeks 日本版 2018.03.13
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/03/89-3.php>
5. What Really Happens in China's 'Re-education' Camps, The New York Times, May 15, 2018
<https://www.nytimes.com/2018/05/15/opinion/china-re-education-camps.html>
6. Simon Denyer, Former inmates of China's Muslim 'reeducation' camps tell of brainwashing, torture, The Washington Post, May. 17, 2018
https://www.washingtonpost.com/world/asia_pacific/former-inmates-of-chinas-muslim-re-education-camps-tell-of-brainwashing-torture/2018/05/16/32b330e8-5850-11e8-8b92-45fdd7aaef3c_story.html?utm_term=.95541c3fd6ad
7. Adrian Zenz, New Evidence for China's Political Re-Education Campaign in Xinjiang, May 15,

- 2018
<https://jamestown.org/program/evidence-for-chinas-political-re-education-campaign-in-xinjiang/>
8. Adrian Zenz, "Thoroughly Reforming them Toward a Healthy Heart Attitude" - China's Political Re-Education Campaign in Xinjiang, May 15, 2018
https://www.academia.edu/36638456/_Thoroughly_Reforming_them_Toward_a_Healthy_Heart_Attitude_-_Chinas_Political_Re-Education_Campaign_in_Xinjiang
 9. Tara Francis Chan, China is secretly imprisoning close to 1 million people — but they've left 2 big pieces of evidence behind, May. 30, 2018
<http://www.businessinsider.com/how-many-people-are-imprisoned-in-xinjiang-china-government-documents-2018-5>
 10. Xinjiang Political 'Re-Education Camps' Treat Uyghurs 'Infected by Religious Extremism': CCP Youth League, RFA, Aug 8, 2018.
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/infected-08082018173807.html>
 11. Shawn Zhang, List of Re-education Camps in Xinjiang 新疆再教育集中营列表, May 20, 2018.
<https://medium.com/@shawnwzhang/list-of-re-education-camps-in-xinjiang-%E6%96%B0%E7%96%86%E5%86%8D%E6%95%99%E8%82%B2%E9%9B%86%E4%B8%AD%E8%90%A5%E5%88%97%E8%A1%A8-99720372419c>
 12. Shawn Zhang, Detention Camp Construction is Booming in Xinjiang, Jun 19, 2018.
<https://medium.com/@shawnwzhang/detention-camp-construction-is-booming-in-xinjiang-a2525044c6b1>
 13. Shawn Zhang, Xinjiang's re-education system is a hybrid of Gulag and Indian Residential School, Jun 13, 2018
<https://medium.com/@shawnwzhang/latest-re-education-campaign-in-karshgar-xinjiang-167668ad5729>
 14. Shawn Zhang, Satellite Imagery of Xinjiang "Re-education Camp" No.3 新疆再教育集中营卫星图 3, May 20, 2018.
<https://medium.com/@shawnwzhang/satellite-imagery-of-xinjiang-re-education-camp-%E6%96%B0%E7%96%86%E5%86%8D%E6%95%99%E8%82%B2%E9%9B%86%E4%B8%AD%E8%90%A5%E5%8D%AB%E6%98%9F%E5%9B%BE-96691b1a0d62>
 15. Shawn Zhang, Satellite Imagery of Xinjiang "Re-education Camp" No.1 新疆再教育集中营卫星图 1, May 20, 2018.
<https://medium.com/@shawnwzhang/satellite-imagery-of-xinjiang-re-education-camp-3-%E6%96%B0%E7%96%86%E5%86%8D%E6%95%99%E8%82%B2%E9%9B%86%E4%B8%AD%E8%90%A5%E5%8D%AB%E6%98%9F%E5%9B%BE-3-bae61bef8028>
 16. 阿图什市人民政府 <http://www.xjats.gov.cn/> の web.archive.org バックアップサイト
<https://web.archive.org/web/20180706221430/http://www.xjats.gov.cn/P/C/1736.htm>
 17. Shawn Zhang, Satellite Imagery of Xinjiang "Re-education Camp" No.23 新疆再教育集中营卫星图 23, May 20, 2018.
<https://medium.com/@shawnwzhang/satellite-imagery-of-xinjiang-re-education-camp-1-%E6%96%B0%E7%96%86%E5%86%8D%E6%95%99%E8%82%B2%E9%9B%86%E4%B8%AD%E8%90%A5%E5%8D%AB%E6%98%9F%E5%9B%BE-1-eea378e8ed8b>
 18. Shawn Zhang, Satellite Imagery of Xinjiang "Re-education Camp" No.29 新疆再教育集中营卫星图 29 (Largest Re-education Camp?). 26 Jul, 2018.
<https://medium.com/@shawnwzhang/largest-re-education-camp-d7d6ce15e273>
 19. XINJIANG AUTHORITIES BUILD MASSIVE UNDERGROUND PRISON, Aug 20, 2018
<https://bitterwinter.org/massive-underground-prison/>
 20. Omir Bekali talks about the psychological stress he endured in a Chinese internment camp
<http://www.abc.net.au/news/2018-05-18/omir-bekali/9773366>
<http://www.businessinsider.com/what-is-life-like-in-xinjiang-reeducation-camps-china-2018-5>
 21. 水谷尚子, 「ウイグル「絶望」収容所——中国共産党のウイグル人大量収監が始まった」Newsweeks 日本版 2018.02.18; <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/02/post-9547.php>
 22. 水谷尚子, 「イスラーム教徒に豚とアルコールを強要する中国・ウイグル「絶望」収容所」, Newsweeks 日本版 2018.05.18; <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/05/post-10194.php>
 23. Video: 'This person will simply disappear': Chinese secretive 'reeducation camps' in spotlight at

- Kazakh trial
<https://www.hongkongfp.com/2018/07/17/person-will-simply-disappear-chinese-secretive-reeducation-camps-spotlight-kazakh-trial/>
24. Kazakh court frees woman who fled Chinese re-education camp
<https://www.theguardian.com/world/2018/aug/01/kazakh-court-frees-woman-who-fled-chinese-re-education-camp>
 25. NHK-BS1 国際報道「中国でウイグル族大量拘束 今何が？」2018.07.19
<http://www6.nhk.or.jp/kokusaihoudou/bs22/feature/index.html?i=180719>
 26. Radio Free Asia, 「ホータンの収容所で 558 人が肺の伝染病が明らかになった」
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/siyaset/uyghurda-lager-05282018133938.html?encoding=latin>
 27. Uyghur Teenager Dies in Custody at Political Re-Education Camp, Radio Free Asia news, 2018.03.14
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/teenager-03142018154926.html>
 28. Uyghur Father of Two Dies After Falling Ill in Xinjiang Re-Education Camp, Radio Free Asia news, 2018.04.11
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/father-04122018153525.html>
 29. 遺体安置所 Radio Free Asia news, 2018.06.25
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/medeniyet-tarix/jeset-bir-terep-qilish-06252018164051.html?searchterm%3Auf8%3Aurstring=depne&encoding=latin>
 30. 「中国では人命はとてつもない、臓器のほうが高値だ」元医師の告白
<http://www.epochtimes.jp/2017/10/28953.html>
 31. 中国当局がウイグル地域各地に急ピッチで火葬場建設
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/jeset-koydurush-06122018145148.html?encoding=latin>
 32. ウルムチ沙依巴克区 火葬場保安員の公募
<https://m.wlmq.com/0010155185.html>
 33. 「ニュースウィーク日本版」ウェブ編集部, 中国共産党、ウイグル「絶望収容所」の実態
<https://toyokeizai.net/articles/-/212978?page=4>
 34. 「トランプ政権 中国がウイグル族を不当に収容と非難」, NHK New Web, 2018 年 7 月 27 日
https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180727/k10011551041000.html?utm_int=all_side_ranking-social_002
 35. Hearing on Surveillance, Suppression, and Mass Detention: Xinjiang's Human Rights Crisis
<https://www.youtube.com/watch?v=rE8Ve2nxPds&feature=youtu.be&t=1623>
 36. 米政権「ウイグル、数十万人を拘束」中国当局を批判、毎日新聞, 2018 年 7 月 28 日
<https://mainichi.jp/articles/20180729/k00/00m/030/079000c>

第三章 ウイグル人社会各界のエリートも収容所に

2017年から大々的に大に行われるようになった思想改造目的の強制収容施設での不当な拘束が今も続いている。そしてウイグル人社会に何らかの影響を持つ著名人、教育界のエリートたち、著名なイスラム学者、人気のスポーツ選手、音楽家、経済界で成功した経営者が続々と強制収容所に入れられている。以下には、代表的な例を挙げる。(ここで挙げた例はメディアなどで公開された情報のみであって、氷山の一角にすぎない。)

1. 【教育界】

1. 自治区教育庁の庁長官 サッタル・サウト (Sattar Sawut)
2017年、「重大な規律違反」で拘束され、強制収容施設に送られた。サッタル氏が任期中に編纂したウイグル語教材は、自治区自治区内で教科書として使われていた。『参考資料』

http://www.sohu.com/a/144868168_260616

http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm



2. 自治区政府党委員会元秘書官、教育庁副長官長、新疆新聞社 社長長を務めたアリムジャン・メメットイミン (Alimjan Memtimin) (59) 『参考資料』

http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm



3. ウイグル自治区社会科学院副院長長や新疆教育出版社 社長長アブドゥラザク・サイム (Aburazaq Siyim) (61)

『参考資料』

http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm



上記三名の方はウイグル語の教科書の編集、出版にかかわる人物であった。そのウイグル語教材は、自治区内で教科書として使われていたが、それらが「文文学、歴史、道徳分野には、民族分離を煽る内容が含まれており、それを12年間も現場で使ったため大勢大の若者が深刻な洗脳を受けた」と糾弾され、ほぼ同時期に収容施設に送られたのである。『参考資料』

http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm

<http://news.sohu.com/20170209/n480334060.shtml>

4. 新疆大学大学 学長長 タシポラット・ティップ (Tashpulat Tiyip, 塔西甫拉提·特依拜)

自治区最大大の教育機関である新疆大学大学 学長長を2010年から務めていたタシポラット・ティップ教授(60)は昨年3月に解任され、それ以降は当局に拘束されていると、今年2月にRFAの取材に答えた大学大学関係者が明かした。新疆大学大学を卒業後、東京理科大学で理学博士号を取得。研究プロジェクトの成果から中国教育省に賞を与えられたことも多数あり、新疆では著名な学者だった。タシポラット氏は、1996年から新疆大学大学の副学長、2010年から2017年まで同大学学長、党副書記と務めていた。

『参考資料』

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/university-president-02202018173959.html>



5. 新疆医科大学の元長学長 ハリムラット・グプル (Halmurat Ghopur, 哈木拉提·吾甫尔)

新疆医科大学の元長学長・教授で昨年からは自治区食品医薬品監督庁長だったハリムラット・グプル氏(58)も、今年になってから消息不明だ。ハリムラットは収容施設で死亡したとの説もある。彼は中国伝統医療を学ぶ上海中医薬大学を卒業し、ロシアのサンクトペテルブルク医科大学で博士号を取得。中国全国最優秀研究者の1人に選ばれるなど、中国全土でも名を知られる有名教授だった。医科大学で彼はウイグル伝統医学の継承にも力を注ぎ、民族医学教育ではウイグル語による授業をずっと続けてきた。ハリムラット氏は、1998年から新疆医科大学の副学長、2008年から2017年まで同大学学長、党副書記と務めていた。

『参考資料』

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/arrest-01122018152937.html>



不思議なことに、上記両大学ホームページの歴任学長リスト『参考リンク』から、新疆大学元長学長タシポラット氏と新疆医科大学の元長学長ハリムラット氏の名前が消されている。これは中国が歴史・事実を平気で消すまたは変えてしまうことの証拠でもある。

新疆大学歴任学長 <http://www.xju.edu.cn/xxgk/lrxz.htm>

新疆医科大学歴任学長 <http://www.xjmu.org/xqzl/lrld.htm>

6. 新疆師範大学教授 アブドゥカディリ・ジャラリディン (Abduqadir Jalalidin)

知名度の高いウイグル文学者で新疆師範大学教授でもあるアブドゥカディリ・ジャラリディン(54)は今年1月にウルムチ市国家安全局に拘束された。アブドゥカディリはカシュガル師範学院を卒業後、ウイグル文学者の道を歩んだ。彼は00年代初頭、石川県に数カ月滞在したことがあり、その体験を記した本の一部がウイグル語教科書に引用された。ウルムチ市の中で最大級と言われている収容施設に収監されているとされる。『参考資料』

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/scholar-04252018140407.html>



7. 新疆大学教授 ラヒレ・ダウット (Rahile Dawut)

ウイグル文化研究の先駆者で新疆大学人類学研究所教授、博士であるラヒレ・ダウット (52 歳) が、2017 年 12 月北京で消息不明となったとニューヨークタイムズ電子版が 8 月 10 日に報道した。ダウット氏の家族は、黙っていることで再教育施設、拘留施設から解放されないことが分かったため、ダウット氏が消えてから 8 か月後の今、これを話すことを決めたと言ったという。ダウット教授は、日本人研究者の菅原 純と共著で中央ユーラシアにおけるイスラム聖堂に関する研究をテーマにした、「マザール、MAZAR」という本を出版していた。『参考資料』



Star Scholar Disappears as Crackdown Engulfs Western China, The New York Times

<https://www.nytimes.com/2018/08/10/world/asia/china-xinjiang-rahile-dawut.html>

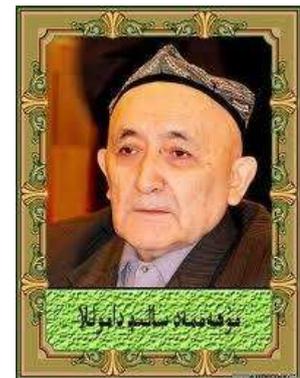
Mazar: Studies on Islamic Sacred Sites in Central Eurasia, Sugawara Jun, Rahile Dawut, 2016

<https://www.amazon.co.jp/Mazar-Studies-Islamic-Central-Eurasia/dp/4904575512>

2. 【宗教界】

8. 著名なウイグル人イスラム学者 ムハンマド・サリヒ (Muhammad Salih)

著名なウイグル人イスラム学者で、『クルアーン』のウイグル語訳者として名を知られる 82 歳のムハンマド・サリヒ師が 17 年 12 月中旬、中国新疆ウイグル自治区の区都ウルムチの自宅から突然何者かに連行された。サリヒ師は中国共産党の強制収容施設に収監され、約 40 日後の 18 年 1 月 24 日に**死亡**した。『参考資料』

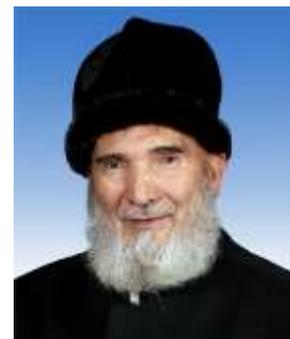


<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/scholar-death-01292018180427.html>

9. 全国イスラム協会副主席、ウイグル自治区政協の副主席、ホータンイスラム協会主席、ホータンモスクのイمام アブドレティプ・アブドレヒム・ダモッラ (Abdulletip Abdurehim Damollam)

2017 年に 3 年刑で刑務所に入れられた。『参考資料』

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/din/abdulletip-abdurehim-damolla-tutqun-05102017142750.html?encoding=latin>



10. カシュガル・トックズタシモスクのイمام アプリミット・ダモッラ (Ablimit Damollam)

アプリミット・ダモッラは自宅から突然連行され、収容所に収監された 2 カ月後の昨年 6 月に**死亡**した。

アプリミット・ダモッラ (81) は、80 年代に新疆ウイグル自治区で初めて寄宿舎付きの私立学校「カシュガル語学・技術専門学校」を開校したベテラン教育家でもある。

アプリミットは学校にウイグル語で英語、中国語、アラビア語、トルコ語を教えるクラスと、看護師・歯科医師を育成するコースを設置。

全日制だけでなく夜間制の学生も受け入れ、経済的に恵まれない人も教育を受けられるよう



にした。付属病院も開設し貧しい者への医療費免除など慈善事業を行って人々の支持を集めたが、2000年頃に中国当局が施設を強制的に封鎖していた。アメリカの短波ラジオ放送「ラジオ・フリー・アジア (RFA)」の報道によると、アブリミットは身柄拘束から2カ月後の昨年6月に死亡した。死因は知らされず、葬儀は当局の厳重な監視のもと、弟子たち、周りの住民の参加が許されず家族だけで行われたという。『参考資料』

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/ablimit-damollam-wapat-boldi-06162017193458.html?encoding=latin>

11. ケリヤ県政協副主席、県メインモスクのイمام イミン・ダモツラ (Imin Damollam)

2017年5月に18年の実刑判決で刑務所に監禁された。罪は2016年のメッカへのハッジ(大巡礼)で「ウイグル分裂意識のある」人々にハッジ代行費を渡したことであった。『参考資料』

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/qanun/uyghur-kadir-05212018160053.html?encoding=latin>



12. ニルカ (Nilqa) 県 イスラム学者 アブドレシット・ハジム (Abdureshit Hajim) (65)

アブドレシット氏は強制収容所に監禁されてから9か月間たった今年の6月5日に、収容所内で死亡し、頭部分が白い布で覆われた遺体が家族に返された。しかし、家族が遺体の頭・体部分を見ることも許されず、死因が不明のまま、警察の厳重な監視下で埋葬されていたことがRFAの取材で明らかになった。

参考資料：

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/abdureshit-seley-hajining-olumi-06082018234941.html?encoding=latin>



13. ホータン スラーム学者 アブドルエヘッド・メフスム (Abdulehet Mexsum) (87)

2017年11月拘束され、収容施設で死亡していたことが今年5月にイスタンブールに住んでいる親戚の調べで分かった。アブドルエヘッド・ハジムは7人の弟子にイスラム知識を教授したことが拘束の原因だったという。

『参考資料』：

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/abdulehed-mexsum-ghayibane-namaz-06012018225457.html?encoding=latin>



3. 【スポーツ界】

14. 人気のサッカー選手エリパン・ヘズムジャン (Erpan Hezimjan)

人気のあったウイグル人サッカー選手エリパン・ヘズムジャンの失踪は、漢人の熱烈なファンたちがソーシャルメディア上で告発して発覚した。今年 19 歳の彼は 15 歳から中国のサッカーチームでプレーをし、失踪前は中国スーパーリーグの江蘇省チームに所属していた。

今年 2 月末頃に里帰りしたが、3 月に南京で行われた試合に姿がなかったことを心配する書き込みが相次いだ。RFA は 4 月、彼の地元ドルビリジン県へ電話取材をし、同県警察署職員の証言で 2 月頃に強制収容所に送られたことが判明した。

所属チームの主戦力として 1~2 月にかけて、スペインやアラブ首長国連邦で試合に出ていたが、「外国に行ったこと」を理由に、県中心部から約 10 キロ離れたトゥルグン村の強制収容施設に送られたという。そこにはウイグル人約 1000 人が収容されている。

『参考資料』:



<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/erpan-hezimjan-terbiyeshte-04162018153838.html?encoding=latin>

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/footballer-04132018162312.html>

<https://www.hongkongfp.com/2018/07/07/rising-star-footballer-among-million-uyghurs-sent-chinese-re-education-camps/>

4. 【芸能界】

15. 民謡歌手 アブドゥレヒム・ヘイト (Abdurehim Heyit)

ウイグル人の幅広い年齢層に愛されている民謡歌手でドゥツタル奏者(ドゥツタル王)のアブドゥレヒム・ヘイト (56) は、昨年 4 月に公安警察に連行されてから行方不明になった。アブドゥレヒムは北京の中央民族歌舞団や新疆ウイグル自治区歌舞団で活躍し、数多くのアルバムも発表した。ウイグルの民族文化に誇りを持ち、前を向いて生きていこうと呼びかけるメッセージ性の高い曲が多いこと、特にウイグル人に広く知られる歌謡「お父さんたち」の歌詞が問題視されたという。『参考資料』



<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/musician-11022017162302.html>

<https://freemuse.org/news/uyghur-dutar-king-detained-in-china/>

16. ポップス歌手 アブラジャン・アユップ (Ablajan Ayup)

若くハンサムなポップス歌手も収監されている。若い女性を中心に熱狂的人気を誇るアブラジャン・アユップ (34) は、「ウイグルのジャスティン・ビーバー」と欧米誌に紹介されたこともある。ウイグル語のみならず英語や中国語でも歌っていたから漢人にも人気だった。今年 2 月に上海でコンサートを行った 2 日後、ウルムチで拘束された。昨年マレーシアを訪問したことや、民族や故郷への愛



を歌っていたことなどが原因とささやかれている。『参考資料』
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/singer-05182018131924.html>
<https://freemuse.org/news/uyghur-pop-star-detained-in-china/>

5. 【メディア関連】

17. ミスラニン・ドットコム (misranim.com) の創設者 アバベキリ・ムフタル (Ababekri Muxtar)

インターネットのウイグル語サイトも一昨年から昨年にかけて続々と閉鎖され、運営者がことごとく拘束された。また、同サイト管理人トゥルスンジャン・メメット (Tursunjan Memet) も行方不明になっている。トゥルスンジャンの父親は RFA の取材に応じて、「自宅から 6 人の公安に連れ去られ、どこに居るかさえ分からない」と証言した。『参考資料』



<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/authorities-detain-uyghuer-web-masters-and-writers-in-chinas-xinjiang-06132016153910.html>

18. 「バクダシ (bagdax.cn)」創設者 アクバル・エゼッド (Akbar Eset)、
19. 「ボズキル (bozqir.net)」の創設者で自治区教育庁職員のアデル・リシット (Adil Rishat)、
20. テレビ番組の脚本家として知られるオマルジャン・ヘセン (Omarjan Hesén)

21. 新疆人民ラジオ局記者で新疆教育出版社の教科書編集者でもあったジャーナリストのヤルクン・ルーズ (Yalqun Ruzi) (52) も行方不明になっている『参考資料』。最近の情報では、17年刑で刑務所に入れられたという。

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/06/post-10388.php>



ウイグル語書籍は粛清のため書店や一般家庭から没収された。新疆ウイグル自治区文学芸術連合の元会長で、詩人のイミン・アフメディ (Imin Ahmidi) は昨年 6 月、RFA の取材に対し「過去に出版されたウイグル人作家の著作が再検査されている」と語った。ウイグル人に愛読され、現代ウイグル文学を代表する小説であるアブドゥレヒム・オトキュル (Abdurehim Otkur) 『目覚めた大地』や『足跡』、ゾルドゥン・サビリ (Zordon Sabir) 『母なる故郷』なども規制の対象になった。『参考資料』
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/06/post-10388.php>

6. 【経済界】

22. イリ・カザフ自治州 慈善家・不動産開発商 ヌルタイ・アジ (Nurtay Haji、努尔塔依·阿吉)



努尔塔依阿吉学校

ChinaAid がイリ・カザフ自治州及びカザフスタン人の商人から得た情報によると、有名な慈善事業、不動産開発商のヌルタイ・アジが昨年、20 年刑で刑務所に送られたという。ヌルタイ氏はヌルタイ氏個人の全額寄付で孤児、貧しい子供たちのための、全寮制の寄宿学校「努尔塔依阿吉学校」を建設し、これまでに多くの学生を支援していた。

ChinaAid の情報では、ヌルタイ氏と一緒に 10 数名のウイグル、カザフ商人が逮捕されたという。ウイグルの他の地域でも銀行に一定額 (100 万～数 100 万元) 以上の貯金がある人たちも次々と拘束されている。

http://www.chinaaid.net/2018/07/blog-post_11.html

2017 年 5 月に、カシュガル地区で最も成功した経営者ウイグル人の以下 4 名が「宗教的過激主義」という罪で投獄された：

- 23. カシュガル貿易協会会長 物質運送会社経営者 アブドジェリル・ハジム (Abdujelil Hajim)
- 24. カシュガル Emin 貿易市場のオーナー ゲニ・ハジ (Gheni Hajim) ,
- 25. カシュガル Eziz Diyar 市場のオーナー メメット・トルソン・ハジム (Memet Tursun Hajim) ,
- 26. カシュガル Ibsina 歯科病院 オーナー イミン・ハジム (Imin Hajim)

以上の 4 人いずれにも「ハジム」という名称がついているのは、イスラム聖地のメッカにハッジに行って来たことを意味する。RFA の電話インタビューに答えた現地の保安員の情報によると、罪は「承認されていない民間の巡礼に行った」、「宗教的過激派の兆しがあった」という。4 人は 8 年から 18 年の懲役刑を言い渡された。

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/wealthiest-01052018144327.html>

- 27. カシュガル Kasir ホテルのオーナー レストラン経営者 オブルカスム・ハージ (Obulkasim Haji)
RFA のインタビュー情報によると、67 歳のオブルカスムは 2017 年 12 月 5 日入院していたウルムチ市の病院から公安に連行され、再教育キャンプ (強制収容施設) に送られたそうだが、拘束理由や監禁場所がいまだに不明。



<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/hotelier-05072018130431.html>

7. 【官僚・公安関係者】

- 28. ウイグル自治区林業庁庁長 エズズ・ケユム (Ezir Qeyum)
- 29. ホータン地区公安局副局長 ニジャティ・アウドン (Nijat Awudon)
- 30. ホータン地区公安局元副局長 エリ・イミン (Eli Imin)
- 31. ウイグル自治区特捜部ホータン支部隊長 アブドカデル・アブラ (Abduqadir Abila)
- 32. ホータン市公安局副書記 政委 ヤリクン・アブドラザク (Yalqun Abdurazaq)
- 33. カシュガル カラカシ県(Qaraqash)公安局元副書記 政委 アバベキリ・イリ (Ababekri Eli)
- 34. ホータン地区公安局国保支部課長級捜査員 モハタル・トスン (Muxtar Tursun)
らが「重大な規律違反」で拘束され、最近の状況は不明である。

参考資料:

http://www.xinhuanet.com/politics/2017-02/09/c_129473389.htm

<http://news.sohu.com/20170209/n480334060.shtml>

- 35. ウイグル自治区チャルチャン県公安局政治委員 アリフ・トルソン (Ghalip Tursun)
8月18日の現地新聞が、アリフ氏が「テロリスト、3種勢力と協力し、庇った」とし、拘束されたことを報じた。参考資料：
(右写真)

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/qanun/cherchen-uyghur-08202018153604.html?encoding=latin>



8. 【地方の党・政府責任者】

2016年に元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を發揮した**陳全国**が新疆ウイグル自治区の書記に就任してから、権力を誇示する最初の威圧的行動は、ホータン地区基層の**97名幹部**への問責・免職処分を実行することだった。陳の指示で組織された共産党幹部らの査察グループが2017年3月12日からホータン地区の各町、村に入り、たった一週間ほどの調べを行ったあと、3月26日各種の理由で97名幹部（ほとんどウイグル人）に一気に免職処分を下した。処分内容から人権侵害の典型的な例であることがわかる。例えば、ホータン県のブザク郷（布札克乡（郷））党支部書記のジェリリ・マイティニヤズ (Jelil Memetniyaz) は「**宗教師の前でタバコを吸うことに躊躇した**」理由で懲戒免職された。97人の懲戒免職理由には、そのほかに、「毎朝の国旗揚げの怠慢、揚げ回数 of 誤報、住民宅へ走訪・個人情報データの収集を徹底していない」など様々なレッテルがあった。

参考資料:

http://www.china.com.cn/news/2017-04/10/content_40588424_2.htm

<https://www.boxun.com/news/gb/china/2018/01/201801301321.shtml>

<http://news.sina.com.cn/c/nd/2017-04-09/doc-ifyeceza1781280.shtml>

9. 【収容所内死亡者リスト】

ここに挙げたリストはメディアに知られた名前のみである。

1. ムハンマド・サリヒ (Muhammad Salih)、82 歳、18 年 1 月死亡
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/scholar-death-01292018180427.html>
2. アブリミット・ダモツラ (Ablimit Damollam)、81 歳、18 年 6 月死亡
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/ablimit-damollam-wapat-boldi-06162017193458.html?encoding=latin>
3. アブドレシット・ハジム (Abdureshit Hajim)、65 歳、18 年 5 月死亡
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/abdureshit-seley-hajining-olumi-06082018234941.html?encoding=latin>
4. アブドルエヘット・メフスム (Abdulehet Mexsum)、87 歳、18 年 6 月死亡
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/abdulehed-mexsum-ghayibane-namaz-06012018225457.html?encoding=latin>
5. アイハン・メメット (Ayxan Memet)、78 歳、Dolqun Eysa の母、18 年 5 月死亡
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/mother-07022018164214.html>
6. ヌリマングル・メメット (Nurimangul Memet)、24 歳、18 年 6 月死亡
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/qanun/yepiq-terbiyelesh-06042018154152.html?encoding=latin>
7. アブドジャッパル (Abdujappar)、グルジャ Ghulja Bayandaz
8. アブドガッパル (Abdughappar)、34 歳、グルジャ Ghulja Bayandaz 18 年 6 月死亡
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/father-04122018153525.html>
9. ホータン・チンバグ卿 アブドルエヘット・バッカル (37 歳) ら 26 名
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/qanun/yepiq-terbiyelesh-06142018181109.html?encoding=latin>
10. ヤクブジャン・ナマン (17 歳)、カシュガル・ヨプルガ県、18 年 3 月死亡
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/teenager-03142018154926.html>
11. 在日ウイグル人弟 (24 歳)、ウルムチ、18 年 5 月死亡

第四章 “新疆ウイグル自治区”： 中国高度な監視下の野外刑務所



1. 中国当局はウイグル地域を「野外刑務所」化

東トルキスタン（現“新疆ウイグル自治区”）は、古代からヨーロッパと東アジアをつなぐ要衝であるだけでなく、石炭、石油、天然ガス等地下資源の豊富な地域でもある。1949年に中国人民解放軍が東トルキスタンに侵攻し、「新疆ウイグル自治区」として共産党の支配下に組み込んだ。それ以来、中国当局によるウイグル人への差別的、抑圧的政策がずっと続いている。

1.1 【漢民族の大量移住】

中国内陸から漢民族をウイグル地域に大量移住させるのと同時に、多くの若いウイグル人・未婚女性を労働力として中国内陸の工場などに移送し、ウイグル自治区におけるウイグル人口比率の減少を図っている。他に少数民族までに適用された“計画生育”制度も功を奏して、1949年に6%だった漢民族人口が、2010年には40.1%に達している（新疆维吾尔自治区2010年第六次全国人口普查主要数据公报）『参考資料1』。「新疆軍区」数十万軍人とその家族、300万人以上とされる「新疆生産建設兵団」の人口はこれに含まれない。

漢民族がこの地に大量進出してきた、経済発展の恩恵を独占した結果でウイグル族との格差が広がる一方である。中国当局によりウイグル人に対して差別的な政策が実施され、憲法で定めたウイグル人固有の言語、文化的・宗教的権利も侵害されてきた。

1.2 【7・5 ウルムチ虐殺】

そんな中、2009年6月に中国広東省の



玩具工場で労働者として勤務しているウイグル人が中国人に襲撃され多数が殺傷された事件に対する中国政府の対応への不満がきっかけに、ウイグル人の怒りがさらに高まった。同年7月5日にウルムチ市でウイグル学生らによる大規模なデモが発生した。平和的な抗議行動は、中国当局の軍、武装警察によって、過剰な武力行使を通して残虐に制圧され、数千人がウルムチの町で殺害され（中国当局の発表では197人死亡）、殆どのデモ参加者が逮捕された。これは「7・5 ウルムチ騒乱」「7.5 ウルムチ虐殺」と呼ばれる。『参考資料2』

1.3 【悪漢・陳全国】

2009年以降、中国共産党当局によるウイグル人の監視はさらに強まった。特に、元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を発揮した陳全国が、2016年に新疆ウイグル自治区の書記に就任してから、ウイグル人への監視・弾圧が特段に強まった。新疆ウイグル自治区は、習近平政権が推進する現代版シルクロード経済圏構想「一带一路」の戦略的要衝でもあり、そこに完全に監視され・封じ込められた社会を作り上げることが習近平政権の謀略と言えるだろう。

陳は、1年も経たない間に、9万人を越す治安関係ポストを募集し、ウイグル地域における「監視社会」の完成を手掛け、2017年一年間でウイグル自治区の警察の人員が2015年の6倍にまで膨れあがった『参考資料3』。

ウイグル自治区全地域で、500m間隔で交番（便民警務站）が設置され、一つに8-30名の武装警察が配備された。アクト県だけで2017年10月以降、68個の交番を新たに設置したことを現地で当番中の警察がRFAのインタビューで明らかにした『参考資料4』。

陳全国は、ウイグル全地域で上述した「再教育センター」というナチス式強制収容所や以下で述べる監視社会を作り上げた首謀者・真犯人である。

1.4 【最先端の監視技術の実験場】

中国国内には昨年秋の時点で監視カメラが1億7000万台設置されており、今後3年間でさらに4億台が追加されると推定されている。監視カメラの多くには人工知能（AI）が搭載され、顔認証技術などを備えている。その「最先端の監視技術を試行する実験場」となったのは新疆ウイグル自治区である。中国政府は2017年第1四半期（1-3月）にウイグル自治区で10億ドル（約1130億円）以上に相当するセキュリティー関連の投資計画を発表したとウォール・ストリート・ジャーナル紙が明らかにした『参考資料5』。

国際人権組織ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）は明らかにした情報によると、中国当局は、問題を起こす危険のある人物を特定し、先んじて拘束するため、新疆ウイグル自治区に大量のデータを駆使した監視プラットフォームを配備している。この「予測による治安維持」プラットフォームについて、当局が監視カメラの映像や、通話・旅行記録、宗教的志向などの個人情報と統合・分析し、危険人物を特定するためのものだと説明する。カシュガル市だけで今年3月、5100万ドル（約55億円）以上を投じて、統合データプラットフォームを含む監視システムを購入・設置した。この監視カメラシステムは、瞬時にして人の顔と歩き方を識別して個人を特定し、データベースと照合して年齢、性別、身長、民族アイデンティティを判定。その上、親族や知人といった人的ネットワークまで割り出すことができるという『参考資料6』。

1.5 【政治的信頼度点数表】

ウイグル人の研究者で記者のタヒール・イミン（Tahir Imin）氏は昨年2月、新疆から米国に亡命した。同氏はウルムチに住む友人が6月、当局に拘束されたと話す。定期的な礼拝、パスポートの所持、トルコへの渡航記録が減点の対象となったという。そして「マイナスポイントが70を上回ると、危険人物と見なされ、警察に通報される。警察はこれを受け、拘束した人物を再教

育センターに送る」と明かした『参考資料7』。

以下の「人口個人情報採集表（表1、『参考資料5』）」は、ウイグル自治区全地域で「危険人物」を割り出すために使われているものである。表の右側に「重要情報」とされた内容は、年齢が（15～55歳）、ウイグル人か、失業者か、パスポート保持者か、毎日礼拝するか、宗教知識があるか、26の“センシティブな”国に行ったことがあるか、海外とのつながりがあるかなどである。

The form is titled "Population Data Collection Form" and "人口信息采集表". It contains numerous fields for personal and social information, with several key areas highlighted by red boxes and arrows. These highlighted areas include:

- Key Data:** Age group? Uighur? Unemployed? Passport holder? Prays daily? Religious training? Visited one of 26 countries? Contacts abroad?
- Frequency of prayer and venue (home, mosque, other?)**
- Foreign contacts? Relations to foreign contacts?**
- Passport Holder Situation**
- Traveled abroad? How many times in past year?**
- Social stability situation**
- Type of Person**
- State Average Unsafe**
- Person of interest or member of special population? Score from 1-5**
- Relatives in detention?**

 The form also includes sections for "Basic Information" (基本信息), "Education" (教育情况), "Marriage" (婚姻情况), and "Other" (其他). At the bottom, it lists categories like "Community (Village) Leader" (社区(村)干部) and "Elderly" (65 years and above) (65岁以上).

表1. 人口個人情報採集表

また、ウルムチ市の各社区で実際の登記に使われている「常住戸民族語系点数表（下表2）『参考資料7』」によると、各住民一人一人に10カテゴリーで10点ずつ点数付け、ウイグル人の政治的信頼度を評価している。

例えば、この表の1番目のイブラヒム・イスマイル氏（83歳）には50点付けられ、「一般注意人物」とされている。

The table is titled "西北西路社区常住户民族语系行分表". It is a grid with multiple columns and rows, used for scoring residents based on 10 categories. The first row corresponds to Ibrahim Ismail, mentioned in the text as having a score of 50 points.

表2. 常住戸・民族語系

ウイグル人であれば10点、パスポート保持者であれば10点、礼拝していれば10点、宗教知識があれば10点、対象の26か国のどれかに行っただけであれば10点それぞれ引かれ、合計点数は50点となっている。この点数が低いほど「危険人物」とされる。もし、この方が55歳以下で、海外とのつながりがある人だった場合は、点数が30点（マイナス70点）で、即拘束対象となり、収容所（再教育センター）に送られることになる。

亡命者の証言によると、誰が礼拝しているか、誰が断食しているか（イスラム・ラマダンの時期にどの家の人が夜中に起きて明かりをつけているか、職場、学校でお昼ご飯を食べていないかなど）を常にチェックするため、町、村、学校で10人を1グループにし、相互監視体制を作っている。知っている情報を隠した人も罰せられるようになっていく。また、政府幹部に住民と「親戚（双親）」を作らせ、住民の宗教意識、共産党への忠誠心を調べ、人ひとりに点数をつける任務を与えている。その中で、収容所に入れられた若いウイグル女性がいる家に「親戚」となった漢族男性が寝泊まりするケースもあるという。

1.6 【一般家庭に政府幹部が宿泊】

国際人権組織ヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) が「ウイグル人家族の家に中国共産党政府職員がホームステイしている」と5月13日に報告を発表した『参考資料8-9』。報告によると、ウイグル人密集地域の一般家庭が近年、政府幹部による定期的な「ホームステイ」の受け入れを強いられている。中国政府による「民族団結」を名目とした厳しい監視が目的とみられ、官製メディアの情報として、当局は2017年に職員100万人を同地農村へ派遣したと伝えている。職員をウイグル人家族と「共に食べ、共に住み、共に労働し、共に学習」させるという。

1.7 【スマートフォンにスパイウェアを強制装着】

中国にいるウイグル人はまた、2017年4月からスマートフォンにスパイウェア・アプリをインストールすることを強制されている。「ラジオ・フリー・アジア」の報道によれば、「百姓安全」、「Jinwang」と呼ばれるこのアプリは、政府が市民の携帯デバイスをスキャンし、「テロリストや違法な宗教に関する映像・写真・ファイル類を所持していないか確認する」ためのものだという。これらのアプリをインストールすると微信(Wechat)やSNS「微博(Weibo)」のログ、SIMカード情報、Wi-Fiのログイン情報などがサーバーに送信される。インストールを拒否したり、一度インストールしたアプリを削除したりすると、10日間拘束されることがあるとのこと『参考資料10-13』。

今はすべてのウイグル人が24時間監視され、Wechatなどを通して海外にいる親戚と連絡することも一切できなくなっている。我々海外にいる人たちはウイグルにいる親戚から「連絡しないで」と言われている。公安警察からハラスメントや脅迫を受けていると思われる。

1.8 【全車両にGPSを強制装着】

中国当局また、ウイグル地域にあるすべて自動車に対し、中国版全地球測位システム(GPS)「北斗」の端末の設置を義務付けたと米政府系放送局ラジオ・フリー・アジア(RFA)が伝えた『参考資料14』。昨年6月30日までに全車両への「北斗」の端末設置を終える計画となっていた。重機や工事用の車両なども対象となり、端末を設置していない車両は、ガソリンスタンドで給油が拒否されるほか、中古車市場で取引ができない。

1.9 【ウイグル人のパスポートを没収】

中国国内でパスポートを持っている全てのウイグル人からパスポートが没収され、観光や留学のため海外に行くことは非常に難しくなった『参考資料15』。海外留学のため、新しくパスポートを作ることはできなくなった。両親のことが心配で海外から一時帰国した学生のパスポートも没収されるほか、再教育センターに入れられたケースもある『参考資料16』

1.10 【ウイグル人逮捕者数が全国の21%】

中国の人権を監視する国際NGO組織・中国人権擁護(Chinese Human Rights Defenders)は、7月25日にウイグル人逮捕者数を発表した『参考資料17』。中国政府が発表した数字によると、2017年に新疆ウイグル自治区で、刑事的罪で逮捕された人数は全国の同じ罪で逮捕された総数の21%を占めたという。新疆人口は中国全国人口のわずか1.5%を占めているにもかかわらずだ。中国人権擁護は、2008～2017年間にウイグル自治区で逮捕された人数の比較調査を行い、2017年一年で227,882人が逮捕されたこと、これは2016年の逮捕者数27,404人の8.3倍だったことを明らかにした。報告では、これは中国当局が「三股勢力」(暴力恐怖主義、民族分裂主義、宗教極端主義)名目の厳打(厳しく取り締まり)運動の結果との認識を示した『参考資料18』。

2. 中国当局はウイグル住民から DNA など生体データを採集

2.1 【検診名目で DNA 採集】

中国国営の新華社通信は 2017 年 11 月、衛生当局の統計として、新疆の総人口の 9 割に相当する約 1900 万人がこの「検診」を受けたと伝えた。また、中国最大手インターネットポータルサイト「新浪(Sina)」が 2017 年 11 月 1 日、新疆ウイグル自治区衛生計画生育委員会から入手した情報として、ウイグル自治区は昨年 15.85 億元投資し、全自治区で 1884.48 万人、その中、南疆 4 地区・州（ウイグル密集地域）で 912.71 万人（100%）の検診を終えたと伝えた『参考資料19』。

国際 NGO 人権組織の「ヒューマン・ライツ・ウォッチ (Human Rights Watch)」は、このような大規模な強制収集は国際人権規約を踏みにじるものだと批判した。

当局に「全民検診」と呼ばれたこの無料のプロジェクトは、12 歳から 65 歳までの住民を対象に DNA や血液のサンプル、指紋、虹彩、血液型などの生体データを集めている『参考資料20-23』。

2.2 【臓器狩り】

中国新疆出身の在英の元外科医エンヴァー・トフティ (Enver Tohti) 氏は、こうした不合理な新疆地区住民の DNA 採取について、中国移植権威で富裕層や外国人移植希望者のための移植用臓器となる「生きた臓器バンク」とし、住民を秘密裏に「ドナー登録」しているのではないかとの推測を述べた『参考資料19』。

中国衛生部（厚生省）の前副部長・黄潔夫氏は 7 月 26 日、AP 通信のインタビューで、国内ドナー登録者は 21 万人を数え、2020 年には、中国は米国を抜いて世界一の移植大国になると主張した『参考資料24』。

第一章でも述べたが、これまでの報道で各収容所から続々死者が出ていて、家族に返す・見せることなく、新しく設けられた一般人が入ることのできない遺体処理・安置所で処理されている。臓器売買のため、臓器が抜き取られた痕跡のある遺体もあったという噂がある。

以下の写真 1,2 はその証拠である。これは観光でウイグルに行った日本人により今年 1 月にカシュガル空港で撮られた写真であり、空港では「人体器官運送通路」、「人体寄付、移植器官航空



写真1, 2. カシュガル空港で臓器運送を示す

運送保障プロセス」標識の専用通路やスペースが用意され、国家ぐるみで監禁されている人から強制的に臓器を摘出していることを示す徹底的証拠である。

3. 海外在住のウイグル人（留学生、永住者、帰化者）も監視対象に

3.1 【在日ウイグル人の被害】

新疆ウイグル自治区で100万人を超えるウイグル人が「再教育センター」と呼ばれる収容所に収監され、著しく人権被害を受けていることをアメリカ、ヨーロッパ各国のメディア、政府機関、国連などが続々報道し、厳しく非難し始めた（下画：アメリカ政府報道）。しかし、日本ではほとんど報道されていなかった。



2018年7月19日ついに、NHK-BS1 テレビチャンネルの国際報道番組「中国でウイグル族大量拘束 今何が？」で、中国のウイグル人への弾圧、収容所の実態を報道した『参考資料25』。これは日本において、主要メディアとして初めての報道であった。在日のウイグル人として、まずNHKの勇気に感謝したい。本当にありがとうございます！



当番組で在日のウイグル人4名が「家族が収容所に送られ、全く連絡がつかず、生きてるか死んでいるかもわからない」と証言した。8人がインタビューを受け、証言していたようですが、時間の制限により全部伝えきれなかったと思われる。この8名がいずれも、家族が収容所に収監され、現在どうなっているか全くわからない状況だという。日本にそれ以外にも多くのウイグル人の家族が中国で被害を受けている。しかし、その多くはウイグルにいる家族、親戚がさらなる被害・弾圧を受けることを恐れて、沈黙しているのが実情である。だが、「今こそ、国で沈黙せざるを得ない同胞に代わって、国外に住む私たちが声を上げるべきときだ」という在日ウイグル人も増えている。

当NHK番組でも紹介されたが、在日ウイグル人人権団体である「日本ウイグル協会」の呼びかけで、7月1日東京の中心繁華街である新宿で大規模なデモが行われた。これまでに沈黙してきたウイグル人100人以上が参加した。デモでは、「不当な拘束をやめろ」、「強制収容所を閉鎖しろ」、「家族を返せ」、「お父さんを返せ」、「ウイグルに自由を」、「日本人は我々を助けてください」と訴えた。7月7日また六本木、中国大使館前で150人以上のウイグル人によるデモがあった。これほど多くの在日ウイグル人が中国のウイグル人弾圧を訴え、このようなデモに参加したのは初めてであった。

私たち有識者会が把握した情報では、例えば、一年前に娘を連れて一時帰国したお母さん（Mさん）は、パスポートが没収され、母子とも日本に戻っていない；在日ウイグル人Gさんの弟（24歳）が今年5月に収容所で亡くなり、遺体を家族に返してくれなかったという。死因は何なのか、遺体はどこに、どういう方法で処理されたかなどの情報は一切聞かされていない。電話に答えた親族は「党のケアの元で葬送した、さようなら」といっただけで、他に何も言えなかったという。

その他、在日ウイグル人で中国パスポートの有効期限が近づき、中国大使館に更新手続きに行ったところ、中国新疆に帰って現地で更新してくるようにならざるを得ないと言われ、更新できなかった人が何人もいる。その中にパスポートの有効期限が既に切れ、中国に帰ることもできず（中国に帰ると収容所に送られることが明白であるため）、困っているウイグル人がいる。また、日本の大学院を卒業したらウイグルに帰るつもりで、日本で就職活動をやっていた人で、中国に帰ることを恐れて、日本に残らざるを得ない人や日本滞在ビザの心配をしている学生も多数いる。

在日ウイグル人(帰化者を含む)の被害状況をまとめると以下になる。

- ・日本（海外）にいるウイグル人は中国にいるご家族と連絡が取れなくなっている。
- ・在日ウイグル人でもご家族が収容所に収監された人が多数いる。
- ・在日中国大使館がウイグル人のパスポート更新申請を受け付けなくなっている。
- ・一時帰国者が収容所に入れられたりして日本に戻ってこられなくなっている。
- ・中国にいる家族が人質に取られて、留学生ら自身は帰国やスパイ活動が強要され、「従わないと家族を再教育センターに送る」と脅迫されるケースが増えている。
- ・帰化やビザ申請に必要な書類の中国からの取り寄せができなくなっている。

3.2 【海外にいるウイグル人の被害】

中国政府はウイグル弾圧の手を海外まで伸ばしている。例えば、以下のような報道がある。

- ・ エジプトで中国のウイグル族の拘束・強制送還相次ぐ



<http://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2017/09/0901.html>

Uyghur Students in Egypt Detained, Sent Back to China

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/students-07072017155035.html>

- ・ 海外にいるウイグル人にスパイ活動を強要

Spy for Us — Or Never Speak to Your Family Again

https://www.buzzfeed.com/meghara/china-uyghur-spies-surveillance?utm_term=.ndzvJGJgbG#.aaplb9bgm9

- ・ 親族訪問・一時帰国者のパスポート没収、「再教育センター」へ収監
“Uighur graduate student goes missing upon returning to China”

<https://www.amnesty.org/en/latest/news/2018/07/uighur-graduate-student-goes-missing-upon-returning-to-china/>

『参考資料』

1. 《新疆维吾尔自治区 2010 年第六次全国人口普查主要数据公报》
http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/dfrkpcgb/201202/t20120228_30407.html
2. 2009 年「7・5 ウイグル騒乱」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/2009%E5%B9%B4%E3%82%A6%E3%82%A4%E3%82%B0%E3%83%AB%E9%A8%92%E4%B9%B1>
3. 「AI に顔認証……中国がウイグルで実験し始めた監視社会の実態」
https://the-liberty.com/article.php?item_id=13986
4. 500m 間隔で武装警察交番設置, RFA 2017.08.17
<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/aqtuda-68-saqchi-ponkiti-08172017213200.html?encoding=latin>
5. 中国「完全監視社会」の実験場、新疆に行く, Josh Chin and Clément Bürge, The Wall Street Journal, 2017.12.22

6. <https://jp.wsj.com/articles/SB11070217722261694869804583589052841366988>
ビッグデータで危険人物「予測」 中国の治安対策, The Wall Street Journal, 2018.02.28
7. <https://jp.wsj.com/articles/SB12343497592033114173304584071460854064956>
ウイグル人の信頼度を定める点数表があった、RFA, 2017.12.20
8. <https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/siyaset/uyghur-jedwel-07122017141518.html?encoding=latin>
China: Visiting Officials Occupy Homes in Muslim Region, HRW
9. <https://www.hrw.org/news/2018/05/13/china-visiting-officials-occupy-homes-muslim-region>
Chinese Uyghurs forced to welcome Communist Party into their homes
10. <https://edition.cnn.com/2018/05/14/asia/china-xinjiang-home-stays-intl/index.html>
中国、ウイグル族にスパイウェアのインストールを強制, ベンジャミン・フィアナウ, NewsWeek Japan, 2017.7.26
11. <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2017/07/post-8062.php>
RFA 独家：新疆强迫居民安装手机监控软件 10 哈族妇女微信发言被拘, 2017.07.13
12. <https://www.rfa.org/mandarin/yataibaodao/shaoshuminzu/ql2-07132017112039.html>
Report: Xinjiang Residents Forced to Download Spyware App, Chinese Regime Can Track and Censor Users
13. <https://www.ntd.tv/2018/04/13/report-xinjiang-residents-forced-to-download-spyware-app-chinese-regime-can-track-and-censor-users/>
China forces Xinjiang Uyghurs to install mobile spyware, enforces with stop-and-frisk
14. <https://boingboing.net/2017/07/26/jingwang.html>
Vehicles to Get Compulsory GPS Tracking in Xinjiang, RFA 2017.02.20
15. <https://www.rfa.org/english/news/uyghur/xinjiang-gps-02202017145155.html>
<http://www.alertchina.com/archives/2265113.html>
16. <https://www.bbc.co.uk/news/world-asia-china-38093370>
China confiscates passports of Xinjiang people
17. <https://www.amnesty.org/en/latest/news/2018/07/uighur-graduate-student-goes-missing-upon-returning-to-china/>
Uighur graduate student goes missing upon returning to China
18. <https://www.nchrd.org/2018/07/criminal-arrests-in-xinjiang-account-for-21-of-chinas-total-in-2017/>
Criminal Arrests in Xinjiang Account for 21% of China's Total in 2017. NCHRD, Jul 25, 2018
19. <https://www.rfa.org/mandarin/Xinwen/d-07252018162042.html>
人权组织指中国当局 2017 年以刑事罪逮捕的穆斯林人数是上一年的 7 倍多, RFA, 2018.07.25
20. <https://news.sina.com.cn/o/2017-11-01/doc-ifynmnae1006240.shtml>
新疆投入 15 亿多元完成新一轮全民健康体检工程, 新浪(Sina), 2017.11.01
21. <http://www.epochtimes.jp/2017/12/30173.html>
中国当局、新疆で 1900 万人の DNA 採集 「無料の全民検診」実施, The Epoch Times, 2017.12.15,
22. <http://www.epochtimes.jp/2017/12/30173.html>
中国：少数民族から DNA サンプルを数百万人規模で採取
23. <https://www.hrw.org/ja/news/2017/12/13/312755>
China collecting DNA, biometrics from millions in Xinjiang: report
24. <https://edition.cnn.com/2017/12/12/asia/china-xinjiang-dna/index.html>
China Is Vacuuming Up DNA Samples from Xinjiang's Muslims
25. https://www.buzzfeed.com/meghara/china-is-quietly-collecting-dna-samples-from-millions-of?utm_term=.reOnBxBjGX#.mabNxJxZqJ
中国衛生部の前副部長・黄潔夫氏「中国は 3 年後世界一の移植大国になると主張」
26. <http://www.epochtimes.jp/2017/08/28097.html>
NHK-BS1 国際報道「中国でウイグル族大量拘束 今何が？」 2018.07.19

<http://www6.nhk.or.jp/kokusaihoudou/bs22/feature/index.html?i=180719>

その他：

ウイグル人の政治的迫害 - 個別事件の簡単な説明概要

Political Persecution of the Uyghurs—Brief Description of Some Individual Cases

<https://freedomsherald.wordpress.com/2018/01/19/political-persecution-of-the-uyghurs-brief-description-of-some-individual-cases/>

第五章 中国のウイグル言語への侵害状況

ウイグル語教育 → 「双語」教育 → 漢語のみの教育への転化
→ 幼稚園、小・中・高校、大学でのウイグル語使用全面禁止へ

1949年に中国人民解放軍の侵攻により共産党支配下に置かれ、1955年に設置された新疆ウイグル自治区（東トルキスタン）の当初は、東トルキスタン・イリ政府と中国共産党の交渉、平和条約の約束通り、それまでに展開されてきたウイグル言語など独自の民族言語による教育が継続された。1950年初頭からは漢語が選択科目として導入されていた。

しかし、1960年代に入ると次第に漢語教育が重要視されるようになり、漢語が民族学校において必須科目となる一方、漢語学校に設置されていたウイグル語の選択科目は廃止された（リズワン, 2009）。

1977年から新疆ウイグル自治区政府は少数民族への漢語教育の強化を政策課題としてさらに強調するようになった（リズワン, 2009；Mamtimyn 他, 2015）。

1982年制定の中華人民共和国憲法では、少数民族言語による教育が保護されることになった（Grose, 2010）が、実際には教育現場における漢語への一元化が推進されていった。

1990年代末からは少数民族の漢語習得、主流文化の吸収が強く促されるようになる（王, 2006）。

2004年に交付された「全面的に双語教育を推進することに関する決定（関与大力推進双語教学的決定）」により、ウイグル語の授業のみをウイグル語で行い、その他の科目はすべて漢語で教える「双語教育」に取って代わられることとなった（アナトラ, 2013；リズワン他, 2014）。

2010年からウイグル全地域において幼稚園、小学校一年から「双語教育」が実施されるようになり、中国内陸からウイグル語が知らない漢族教師が大量に投入された（例えば、2017年4月26日ホータン地区・チラ県政府ウェブサイトでの募集（参考資料8）によると、人口13万人のこの県だけで1093人の教師を中国内陸から募集している；またホータン地区政府からも中国内陸向けの同様な募集（参考資料9）があり、現地一般教師給与の2倍以上の賃金が提示されている。これにより、学校ではウイグル語の授業がほとんど行われなくなり、漢語を習い始めたばかりの子どもたちに、すべての授業を漢語で行うようになった。一方、これまでに長年ウイグル語による授業をやって来たベテランの優秀な教師たちが、漢語水準が満たない理由で「下放」された（教育現場から追い出された）。教育レベル、学生の知力が著しく落ちていった。

この時、ウイグル言語に対する危機を感じた有志の教育者が私立のウイグル語幼稚園、小学校の設立を試みた。現在トルコ在住のアブドワリ・アユップ（Abduweli Ayup）氏（参考10）がウイグル語学校設立を仕掛けた一人である。アブドワリは2011年アメリカ留学から帰国したあと、カシュガルでウイグル語学校を立ち上げた。しかし、2013年にアブドワリ氏を含む学校設立に関わった3人（他 Dilyar Obul, Muhemmet Sidik Abdurshit）が、寄付で集まった支援金の「横領罪」で投獄され（明らかに冤罪である）、ウイグル語学校計画が減ぼされたのである。（その後、アブドワリ氏は治病のためトルクに渡り、現在もウイグル語保護活動を続けている）。

また、中国でウイグル族が直面している現実への理解と問題解決を訴え、当局の政策に批判的な声を上げた知識人、中央民族大学（北京）の著名なウイグル族経済学者、イリハム・トフティ

准教授 (Ilham Tohti, 伊力哈木・土赫提) が「国家分裂罪」に問われ、2014年9月23日、無期懲役判決で投獄された (参考資料11)。

2016年に元中国共産党チベット自治区委員会の書記で、チベット人の弾圧で手腕を発揮した陳全国が新疆ウイグル自治区の書記に就任してから、ウイグル語の使用禁止、漢語教育のみを実施という重大な人権侵害、同化・民族浄化政策を露骨に展開してきた。これは陳の指示で設置した洗脳のための「再教育センター、強制収容所」や監視社会体制以外のもう一つ謀略である。

ウイグル語禁止政策は以下の各地方政府の通知・通達の内容から見取れる。

2017年7月5日、ホータン地区政府のホームページに、「ホータン地区双語教育規定5カ条、小中学校双語教育強化」(《和田地区制定双语教育五条规定, 加强中小学双语教育》(参考資料12)) という規定を公表した。内容は(1) 国家通用言語文字(漢語)を全面普及し、民族言語を付加した双語教育原則を堅持すること、(2) 2017年秋学期から小学校入学前の3年で国家通用言語文字教育を徹底し、小学校1年、中学校1年から国家通用言語文字教学を全面実施、2020年には国家通用言語文字教学を全体的に実現すること、(3) 漢語教師がウイグル語で研修受けるという間違っただり方を止めること、(4) 教育系統内、学校内でウイグル語文字、スローガン、図画などの使用を断固禁止すること、(5) 教育系統の集団活動、公共活動、管理ワークの中でウイグル語の使用を断固禁止すること。以上の双語教育政策に対しての怠慢、不履行、小細工などをした人は、「両面派」、「両面人」として厳重に懲罰される、であった。

そのほか、「ホータン地区学前(入学前)教師8カ条ルール」、「ホータン地区国語教育5カ条規定」などがある (参考資料13)。

和田地区制定双语教育五条规定, 加强中小学双语教育

07-05 00:54 和田地区 0 分享到

1 从基础学汉语 4 学汉语从早开始 7 一对一汉语辅导 10 专研辅导机构 13 英语成绩学习
2 汉语学习 5 双语教育 8 少儿英语 11 三层二层辅导 14 农村小教班
3 新教师培训 6 语言培训 9 留学中介 12 教师培训 15 新疆化教社

一、依法坚持全面普及国家通用语言文字、加授本民族语言的 bilingual 教育根本原则。

二、坚定不移从2017年秋季学期开始, 学前三年全面实行国家通用语言文字教学, 从小学一年级起、初中一年级起全面推行国家通用语言文字教学, 到2020年实现国家通用语言文字教学全覆盖。

三、坚决纠正对汉语教师进行维吾尔语培训的错误做法。

四、坚决禁止在教育系统内、校园内使用只有维吾尔语的文字、标语和图片。

五、坚决禁止在教育系统集体活动、公共活动、管理工作中使用维吾尔语。

凡对双语教育政策、原则不贯彻、不执行、不落实, 搞上有政策、下有对策, 搞阳奉阴违、当面一套、背后一套的, 一律按“两面派”对待, 按“两面人”予以严肃处理。

2017年10月10日、イリ・カザフ自治州イニン県教育局が、自治区教育厅の「少数民族文字教材補選使用に関する通知」(《关于少数民族文字教材教辅选用有关工作的通知》) を通達し、当県において、(1) 全てのウイグル語とカザフ語の「国語」教材の使用を停止すること、学校にすでにある教材は封存すること、(2) 国家統編の教材「道徳と法治」、「歴史」教材の少数民族文字に翻訳が終わっていないものを含め、使用を停止すること、(3) 関連学科少数民族文字の教材・補助資料の使用を停止すること、(4) この「通知」要求により、各学校が教材・補助教材選択・使用規定に違反してはいけない、問題発覚時はすぐ報告すること、という内容を公表した (参考資料14)。

ウイグル語使用禁止と同時にウイグル語教科書、文学・歴史に関係する出版物の焼却が各地で行われた（参考資料15-16）。



『参考資料』

1. 新井 凜子, 大谷 順子, 2016, 「新疆ウイグル自治区の漢語教育に見る言語とアイデンティティの関係」. 21世紀東アジア社会学 2016-第8号, 1-18.
2. リズワン・アブリミティ, 2009, 「中華人民共和国成立後の新疆における「民族学校」の漢語教育をめぐる一考察」『アジア・アフリカ言語文化研究』78, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 43-77
3. Mamtimyn S., Feng A. and Adamson, B., 2015, “Trilingualism and Uyghur Identity in the People’s Republic of China” in Evans, D. Eds., Language and Identity Discourse in the World. Bloomsbury.
4. Grose, T.A., 2010, “The Xinjiang Class: Education, Integration, and the Uyghurs” Journal of Muslim Minority Affairs Vol.30 No.1, The Institute of Muslim Minority Affairs, 97-109.
5. 王柯, 2006, 『20世紀中国の国家建設と「民族」』東京大学出版社
6. アナトラ・グリジャナティ, 2013, 「中国新疆ウイグル自治区における少数民族双語教育に関する研究」富士ゼロックス株式会社小林節太郎記念基金
7. リズワン・アブリミティ, 大谷順子, 2014, 「中国新疆におけるウイグル族の学校選択」『21世紀東アジア社会学』第6号, 日中社会学会, 156-171
8. 策勒县人民政府《2017 新疆和田地区策勒县双语教师招聘 1093 人公告》, 2017 年 4 月 26 日
<http://www.offcn.com/jiaoshi/2017/0426/153572.html>
9. 《和田地区于田县面向内地招聘教师简章》2017.08.18
<http://www.gzsjyxx.com/client/article/1384>
10. ウイグル学校設立者 アブドワリ・アユップ https://en.wikipedia.org/wiki/Abduweli_Ayup
11. ウイグル族経済学者、イリハム・トフティ准教授が「国家分裂罪」で投獄
<https://ja.wikipedia.org/wiki/イリハム・トフティ>
12. 《和田地区制定双语教育五条规定, 加强中小学双语教育》, ホータン地区ウェブサイトより
<https://archive.is/nybWu>
13. 《新疆禁止幼教信教 教育系统内禁维语》, Radio Free Asia ウェブサイトより
<https://www.rfa.org/mandarin/yataibaodao/shaoshuminzu/xl1-09252017102937.html>
14. 《RFA 独家：新疆全面停用维、哈文字辅选教材》
<https://www.rfa.org/mandarin/yataibaodao/shaoshuminzu/ql1-10132017100200.html>
15. 《新疆伊犁、和田等地收缴民族语言教科书》 ChinaAid, 2018.04.02
http://www.chinaaid.net/2018/04/blog-post_2.html?m=1
16. Thousands of Uighur Books burned by Chinese Authorities
<http://unpo.org/article/101>

第六章 中国のウイグル文化・宗教への侵害状況

ウイグル人は、ユーラシア大陸のほぼ中央に位置し、シルクロードとも言われてきた東トルキスタン（現“新疆ウイグル自治区”）を中心に暮らす、独自の歴史と文化を持つイスラム教を信仰する人々である。

ウイグル人は、8-9世紀に約100年継続した「ウイグル可汗国」(Oghuz Orkhon Khanate)、9～13世紀に約300年繁栄した「天山ウイグル王国 (Uyghur Kingdom of Qocho, 天山山脈北麓)」と「カラ・ハン朝 (Kara-Khanids Dynasty, タリム盆地)」、16-17世紀に165年繁栄した「セイディア汗国」(Saidia Khanate, ヤルカンド)などを建国していた。

こうした独立のウイグル国家は18世紀から清朝の支配下におかれ、1884年に「新しい領土」を意味する「新疆」という名前が付けられた。それでも、ウイグルの反抗が途絶えず1933年と1944年に「東トルキスタン共和国」として独立国家を設立していた。しかし、1949年に再び中国人民解放軍の侵略により、共産党支配下に置かれた。

ウイグルは、かつて仏教やマニ教も信仰した歴史もあったが、8世紀からはずっとイスラム教を信仰してきた平和を愛する農耕民・遊牧民である。

ウイグルは、長い歴史の中でアジア、ヨーロッパ文化も吸収しながら、独自の言語（ウイグル語）や文化・習慣を培って、守ってきたのである。

ウイグルは、古代から音楽・踊りを生活の一部として、それを発展させながら、非常に明るく平和に暮らしていた。ウイグルの古典音楽「12ムカム」は歌、ダンス、音楽が一体となったもので、その素晴らしさが認められ、「世界無形文化遺産」に登録されたほどである。ウイグル人は中国で「能歌善舞」（歌も踊りも上手な）民族と呼ばれてきた。

ウイグルは、何千年もの歴史の中で、男性はヒゲを生やすのと伝統的な帽子をかぶり、女性はベールをかぶると肌脚を露出しないようにロングスカートを着るという習慣を作ってきた。

しかし、今現在、中国共産党の支配下にある、実際に全く「自治」のないこの「新疆ウイグル自治区」で何が起きているだろうか。

中国でいま、ウイグルアイデンティティを破壊する重大な人権侵害、同化・民族浄化が行われているのだ！

1. 【ウイグル文化への侵害】

1) ウイグルの男性（老人以外）は髭を生やすことが禁止されている。

<https://www.bbc.com/news/world-asia-china-39460538>

2) ウイグルの女性はベールやロングスカートを着用することが禁止されている。

新疆ウイグル自治区当局は昨年4月1日から、ひげや公共の場所での顔などを覆うベールの着用を禁じる新たな法律を発効した。

「新疆ウイグル自治区でひげやベール禁止、過激思想対策」(2017.04.01)

<https://www.cnn.co.jp/world/35099111.html>

China Uighurs: Xinjiang ban on long beards and veils

<https://www.bbc.com/news/world-asia-china-39460538>

3) 街の中で民族衣装、ワンピースや長めのシャツが強制的にカットされる。



これらの写真は、2018年7月13日ウルムチ市内で撮影され、WeChatに投稿されたもの

4) ウイグル学生に中華漢族衣装を着させ、孔子・漢族思想教育を強要されている。

・ウイグルアイデンティティーの破壊・同化

<http://freedomsherald.org/ET/cmp/>



5) 伝統的ウイグル歌舞の代わりに中国漢族文化の戏剧を強要されている。

ウイグル音楽「十二ムカム」が世界無形文化遺産に登録されているなど、ウイグル音楽・舞踊が有名であり、ウイグル人は「能歌善舞」（歌も踊りも上手な）民族と呼ばれることがあるが、このような文化を漢族文化に置き換えようとしている。

6) ウイグル女性を漢民族の男性と強制結婚させられている。

<https://news.so-net.ne.jp/article/detail/1582964/>

<http://www.atimes.com/article/beijing-accused-of-forcing-uyghur-han-intermarriages/>

漢族の男性がウイグル族女性の親族を監禁して強要結婚……涙に濡れる花嫁の姿

http://www.cyzo.com/2018/06/post_164302_entry.html

Beijing accused of forcing Uyghur-Han intermarriages

<http://www.atimes.com/article/beijing-accused-of-forcing-uyghur-han-intermarriages/>



ウイグル学生に漢衣装

ウイグル学生に漢衣装

ウイグル若人に解放軍服

ウイグル学生に漢衣装

写真. ウイグル文化の破壊：ウイグル学生に漢族衣装



写真. ウイグル人女性を漢民族の男性と強制結婚

2. 【宗教への侵害】

1) モスクの閉鎖、モスクへ中国旗と監視カメラを設置

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/mosques-08032017153002.html>
<http://america.aljazeera.com/articles/2013/9/18/uyghurs-bow-downtochineseflagatxinjiang-mosque.html>
<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/urumqi-07072010084824.html>
<https://www.engadget.com/2018/02/22/china-xinjiang-surveillance-tech-spread/>

2) モスクに政府系監視系の職員を配置

Xinjiang Authorities Convert Uyghur Mosques Into Propaganda Centers

<https://www.rfa.org/english/news/uyghur/mosques-08032017153002.html>



写真. モスクへ中国旗・監視カメラ設置

3) 18歳以下の全員、学生、教師、職員の礼拝、断食など禁止

<https://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/asia/china/5794696/Chinese-authorities-ban-Uighurs-from-mosques.html>
https://www.theepochtimes.com/communist-regime-bans-people-under-18-from-attending-mosques-in-xinjiang-china_1730829.html

4) モスクで行われて来たウイグル伝統的葬式に家族以外の人々の参加禁止

5) ウイグル人ボランティアの遺体清浄禁止

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/din/meyit-yuyghuchi-ayal-02192018135741.html?encoding=latin>

6) 当局管理下の遺体処理・葬儀場（葬儀サービスセンター）を設立

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/xitay-uyghur-miyit-ishlirigha-qol-tiqti-04062018235849.html?encoding=latin>

7) ウイグル人密集地に火葬場建設

ウルムチ沙依巴克区 火葬場保安員の公募

<https://m.wlmq.com/0010155185.html>



写真. ウイグル人密集地にできた葬儀場と火葬場

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/jeset-koydurush-06122018145148.html?encoding=latin>

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/jeset-koydurush-06132018153137.html?encoding=latin>

<https://www.rfa.org/uyghur/xewerler/kishilik-hoquq/jeset-koydurush-06142018151310.html?encoding=latin>

- 8) 新生児にイスラム系の名前を付けることを禁止するほか、一部大人の名前の改名を強要

<https://www.voanews.com/a/china-issues-ban-on-many-muslim-names-in-xinjiang/3826118.html>

<https://www.telegraph.co.uk/news/2017/04/25/china-bans-islamic-baby-names-muslim-majority-xinjiang-province/>



写真. 新生児にイスラム系の名前を禁止

- 9) 収容所でウイグル人に豚肉とアルコールを強要

イスラム教徒に豚とアルコールを強要する中国・ウイグル「絶望」収容所

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2018/05/post-10194.php>